

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成29年7月18日(火) 15:05～15:10 於) 福島県福島市)

1. 発言要旨

どうも皆さん、こんにちは。

今日は、福島県立医大にある最先端の先端臨床研究センターを訪問しました。ここでは高性能の検査機器や薬剤の製造装置を見てまいりました。福島から世界に発信できる最先端の医療の研究をしているという、その現場を見てまいりました。

また、放射線医学県民健康管理センターも訪問させていただいて、意見交換もさせていただきました。

実は私も発災から4か月間の基礎調査、アンケート調査をしたんですけれども、私は手帳をつけていたから、詳細に外出していたか、家にいたかというところを書けたんですけれども、そういう中で、福島県全員200万県民の基礎データを集め、99.8%が5ミリシーベルト以下だというデータを見せられて、本当に安心したところですよ。やはり県民の健康を、特に原発事故、放射線から県民の健康を守るという、その基礎データをきちんと出してくれるところがこの仕事である、このように認識したところですよ。

また、双葉郡について、今、帰還が進んでいるところなんですけれども、一番心配なのがやはり医療体制でございます。特に、ここから救急医療、昼間だけですけれども、ここから双葉郡に通って救急医療を担ってくれている皆様方ともお話ができたこと、これから富岡町に医療センターができます。そこは24時間救急体制が整うわけなんですけれども、それまでの間、ここから通って、1時間40分かかるそうですけれども、本当に皆様方に頑張ってほしい、このようにお話をしてきたところですよ。

あとは、意見交換の中で、ドクターは医大の方からちゃんと派遣がされますけれども、看護師さん等々の、いわゆる医療チームですね、そこら辺の人材不足という課題もお話を聞いてまいりましたので、復興庁としても、そういう医療チーム、チームとしての人材確保、こんなところにもこれから努力していきたい、このように考えています。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日の視察と少し関係ない話で申し訳ないんですが、東京電力の川村会長が、大臣も先日触れられていましたが、トリチウム水をめぐって、判断しているという発言があった件について、漁業

者には、大臣がおっしゃったとおり、あれは許せない発言だったこともある一方、溜まっていくトリチウム水というのは廃炉作業の一つ障壁になっている。改めて、大臣の御所感というか、考えを教えていただきたいと思います。

(答) 経済産業省で、多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会というのが設置されております。ここで、いわゆるトリチウム水等々のことについて議論がなされておりますので、そこでの議論等も踏まえながら、私の思いも思いながら、これから対応していきたい、このように考えています。

(以 上)